

令和 7 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立きのくに青雲高等学校定時制 校長名：宮本 裕司

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

- ・教育活動を通して、社会におけるルールやマナーなど社会生活に必要な社会性を養う。
- ・社会的自立に向けた基礎学力やコミュニケーション能力を身に付け、適切な職業観・労働観を持ち、地域社会に貢献できる資質・能力を育成する。
- ・学校生活を通じて、自己肯定感、自己有用感を高め、互いの多様性を認め合い協働することができる姿勢を育成する。
- ・平和で民主的、持続可能な社会の形成に向けて、主体的に参画できる資質・能力を育む。

学校評価の公表方法

- ・育友会総会等を通じて保護者への周知を図る。
- ・ホームページに掲載する。

現状・進捗度	A	十分に達成している。（80%以上）
	B	概ね達成している。（60%以上）
	C	あまり十分でない。（40%以上）
	D	不十分である。（40%未満）

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	・生徒の多様な状況に応じた教育を丁寧に行い、基礎学力の定着を図る。	B	・生徒の多様な状況に応じた授業を工夫し、達成感や自己肯定感を養うことに取り組む。	・授業評価アンケート肯定的評価90%以上 ・単位取得率の向上を目指し、卒業率90%を目指す。【授業評価アンケート、卒業率】	B	授業評価アンケート14項目中10項目で肯定的評価90%以上を達成。卒業率は64%となり目標達成は出来ていない。	授業評価の全項目において、肯定的回答が90%以上となるよう、ICT教育の指導体制を重点的に強化していく。また、本校での学校生活が充実したものとなるよう、アンケート結果から現状の課題を詳細に分析し、改善を図る。
			・教育内容を精選し、社会貢献や実社会で役立つ学力の向上に取り組む。 ・通級による指導の充実を図る。	卒業後に自立した市民として役立つ力を育む授業を実施する。 【学校評価アンケート】	B	「本校での生活が、自分の将来に役立つ」において肯定的評価72%	
			・公開授業を通じて、授業改善を図り、言語活動の充実を中心に据えた魅力ある授業を継続する。	・公開授業を教員当たり年1回以上実施する。 ・「書く」「話す」活動を中心に言語活動を充実させる。【公開授業の実施状況】	B	学校開放月間で授業参観を実施。また、研究授業や自主公開授業など複数回実施。	
2	・地域の外部機関とのネットワークを活用し、自己の在り方・生き方をデザインするキャリア教育を計画的に行い、社会的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力の育成を図る。	B	・個人面談や面接指導等を積極的に行い、進路希望の実現に取り組む。	学級担任や進路指導担当者との面談を密に行う。また、就職指導員を活用し、希望の実現を図る。【進学合格率、就職内定率】	A	就職内定率は昨年より大幅に増加し、内定率は100%。進学合格率は100%	きめ細かな進路指導と早期の意識醸成が、高い実績に結実している。今後は、生徒の満足度を一層高めるため、結果の追求のみならず、指導過程の質的向上にも注力する。
			・進路ガイダンスやキャリア講演会等を通して生徒に明確な進路目標を持たせる。	進路ガイダンス及びキャリア講演会等を特別活動の重点項目の一つに位置づけ、定期的に開催する。【学校評価アンケート】	B	「本校では、将来の進路や生き方について考える機会があるか」において肯定的評価が75%達成。	
			・進路LHRや個別相談等で若者サポートステーションわかやまと連携し、生徒の進路意識を高める。	・若者サポートステーションわかやまと連携し、多面的に生徒をサポートする。 【連携回数（学期に1回以上）】	B	「おしゃべり広場」や多様な就職支援において連携を密に出来た。	
3	・生徒支援の充実を図り、全教員による組織的な支援と指導を行うことで、生徒の個性に応じた学びの実現に取り組む。	B	・指導方針・生徒の状況等について全教員の共通理解を図り、多様な問題行動に対する適切な指導方法等を組織的に検討していく。	・生徒情報を共有するために、職員会議や学年会議等で常に情報交換を行い、学校全体で組織的に対応する。【学校評価アンケート】	B	「生徒等の実態を踏まえ、全教職員による組織的・計画的な取組が行われているか」において肯定的評価88%	全教職員の共通理解に基づく組織的な取組を、更に充実させるための方策を講じていく。交通講話や非行・薬物乱用防止講演等の啓発効果が、生徒の内面に深く浸透するよう、指導内容の工夫を検討していく。
			・生徒の課題を早期に発見し、登校・授業参加の動機付けのため、支援委員会を開催し、生徒支援の充実を図る。 ・SC・SSW等を更に活用し、関係機関との連携に努め、迅速・適切な対応を図る。	・支援委員会を定期的に関係機関との連携を図る。 ・保護者との連絡、面談や家庭訪問の機会を増やす。【学校評価アンケート】	A	「生徒指導、教育相談等において、家庭・地域や関係諸機関と緊密な連携ができていくか」において肯定的評価100%	
			・交通講話や非行防止教室を通して交通安全や薬物乱用に対する意識の向上を図る。	・警察署等の関係機関から講師を招聘して講演会、講習会等を開催し、意識の向上及び体得をさせる。【講演会、講習会等の開催数】	B	交通講話や非行防止講演や薬物乱用防止講演等を実施できた。	
4	・ICT機器を積極的に活用し、生徒の情報活用能力の向上、教職員の勤務環境の改善及び地域への有用な情報発信を図る。	B	・全教員が日常的にICTを活用し、生徒の学習効果を高める。	・ICTを活用した学習支援を充実させ、学習の質と機会の充実を図る。 【授業評価アンケート】	B	「ICT機器や視聴覚教材を効果的に活用している場面がある」が68%であった。	令和8年度のBYOD導入を見据え、教育活動における具体的な端末活用場面の策定が急務である。使用自体が目的化せぬよう、効果的な活用法を検討する。また、生成AI等を活用した校務DXを更に推進し、生徒と向き合う時間を確保・充実させていく。
			・教職員の業務環境を改善するため、ICTを有効活用し、校務の効率化を図る。また、HP等による情報発信の活性化を図る。	・業務のDX化を推進し、教員が生徒と向き合う時間を確保する。また、HP等での情報発信の機会を充実させる。 【校務の効率化アンケート、HP更新回数】	B	「校務の効率化による生徒と向き合う時間が確保できているか」が64%、学校HPの更新回数は50回以上	
			・本校での教育活動において、一人一台端末の活用を推進する。	・授業等において一人一台端末の活用機会をより一層充実させる。【授業評価アンケート】	B	「授業において生徒が一人一台端末を活用している場面がある」が49%であった。	

学校関係者評価

学校運営協議会委員からは、授業アンケートの結果から、教員の指導や授業運営が高く評価されていること、また、先生方の熱意や質問への丁寧な対応により、生徒の満足度も高いことがうかがえるとの意見をいただきました。これらの点から、本校教員が日頃から生徒一人一人に丁寧に向き合っていることについて、高い評価をいただきました。

一方で、ICT教育の現状については、授業アンケートにおいても高い評価を得ていないことから、今後の課題として挙げられました。また、ICTの利活用が目的とならないよう、あくまで生徒にとってよりよい授業を行うための手段として活用していくことが重要であるとの意見もいただき、今後の本校におけるICT教育の方向性についての示唆をいただきました。

また、これまで他業務の影響により停滞していた学校ホームページの更新についても、本年度は学校行事ごとに更新が行われ、保護者への紹介のみならず、本校に興味を示す中学生や、地域の方々への情報発信が活発に行われたことについて、高い評価をいただきました。

今後も、いただいた意見を踏まえ、生徒に寄り添った丁寧な指導を大切にしながら、ICTの効果的な活用や校務のDX化を進めるとともに、外部への情報発信の充実にも努め、教育活動の一層の充実を図ってまいります。